

令和元年の台風第19号及び三重県内の 出水概要、被害と状況

令和2年5月11日

鈴鹿川外・雲出川外・櫛田川外・宮川外
大規模氾濫減災協議会

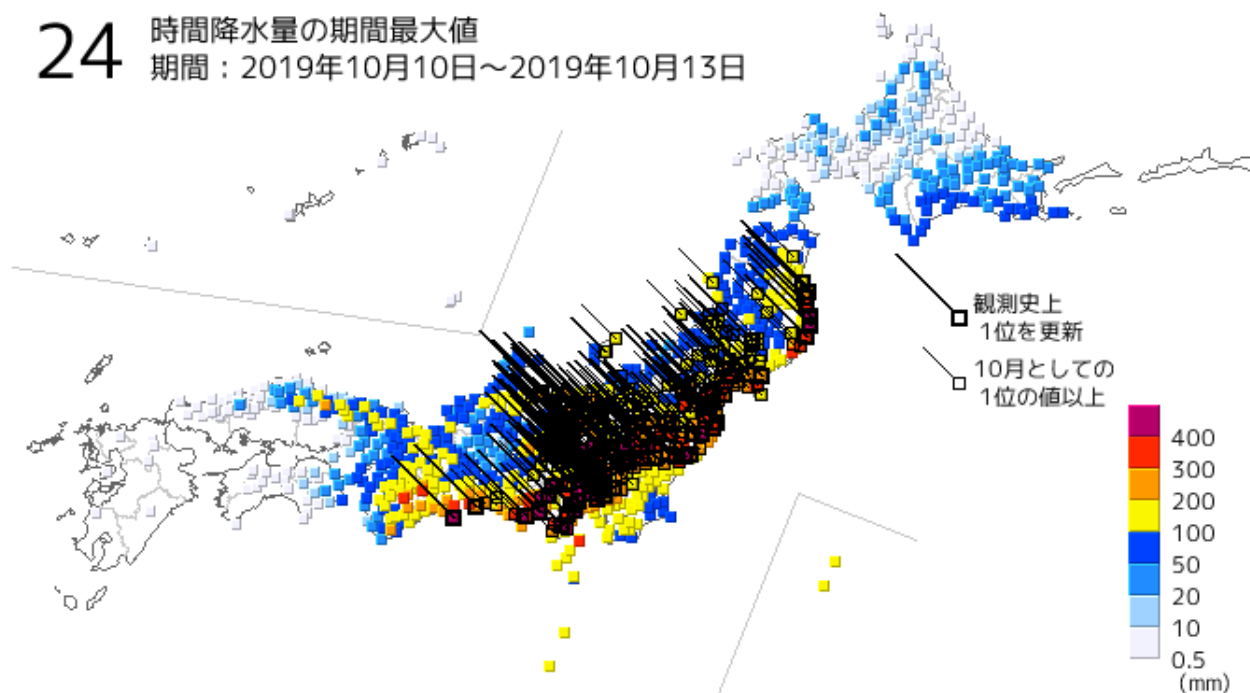
令和元年10月台風第19号の特徴(降雨)

R2年度 第1回大規模氾濫減災協議会

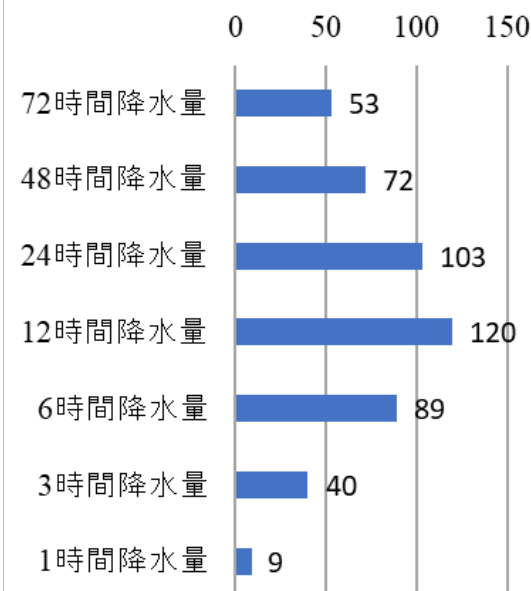
- 10月6日に南鳥島近海で発生した台風第19号は、12日19時前に大型で強い勢力で伊豆半島に上陸した。その後、関東地方を通過し、13日12時に日本の東で温帯低気圧に変わった。
- 台風第19号の接近・通過に伴い、広い範囲で大雨、暴風、高波、高潮となった。
- 雨については、10日から13日までの総降水量が、神奈川県箱根で1000ミリに達し、東日本を中心に17地点で500ミリを超えた。特に静岡県や新潟県、関東甲信地方、東北地方の多くの地点で記録的な大雨となった。
- 降水量について、6時間降水量は89地点、12時間降水量は120地点、24時間降水量は103地点、48時間降水量は72地点で観測史上1位を更新した。

※全国の気象観測地点は約1,300地点

24 時間降水量の期間最大値
期間：2019年10月10日～2019年10月13日



観測史上1位の更新地点数 (時間降水量別)



All Rights Reserved, Copyright(C) Japan Meteorological Agency

※気象庁ウェブサイトより作成（特定期間の気象データ；2019年10月10日～13日（令和元年台風第19号による大雨と暴風））

※数値は速報値であり、今後変更となる場合がある。

令和元年台風第19号による被害

- 令和元年台風第19号の豪雨により、極めて広範囲にわたり、河川の氾濫やがけ崩れ等が発生。これにより、死者90名、行方不明者9名、住家の全半壊等4,008棟、住家浸水70,341棟の極めて甚大な被害が広範囲で発生。

※消防庁「令和元年台風第19号による被害及び消防機関等の対応状況（第32報）」（令和元年10月28日 6:30現在）

信濃川水系千曲川（長野県長野市）

堤防の決壊等により、約1,360haが浸水。市全体で床上浸水3,305戸、床下浸水1,781戸（11/8※）の家屋被害等が発生。

※長野県ウェブサイト



国管理河川で約25,000haの浸水



阿武隈川系阿武隈川（福島県須賀川市ほか）

堤防の決壊等により、約3,400haが浸水。市全体で床上浸水868戸、床下浸水208戸（11/5※）の家屋被害等が発生。

※須賀川市ウェブサイト



荒川水系越辺川、都幾川（埼玉県川越市ほか）

堤防の決壊等により、約2,220haが浸水。市全体で床上浸水329戸、床下浸水72戸（11/1※）の家屋被害等が発生。

※東松山市ウェブサイト



久慈川水系久慈川、里川（茨城県常陸大宮市ほか）

堤防の決壊等により、約1,650haが浸水。市全体で床上浸水475戸、床下浸水87戸（10/15※）の家屋被害等が発生。

※常陸大宮市ウェブサイト



台風第19号による国管理河川の状況(降雨)

- 国管理河川の阿武隈川水系阿武隈川、鳴瀬川水系吉田川、信濃川水系千曲川、久慈川水系久慈川(3カ所)、那珂川水系那珂川(3カ所)、荒川水系越辺川(2カ所)・都幾川では堤防が決壊。
- これらの河川では、基準地点上流域平均雨量が河川整備基本方針の対象雨量を超過又は迫る雨量となった。

台風第19号による堤防決壊発生箇所

〔国管理河川〕 堤防決壊12箇所

〔県管理河川〕 堤防決壊128箇所

10月20日に12箇所全ての仮堤防が完成。

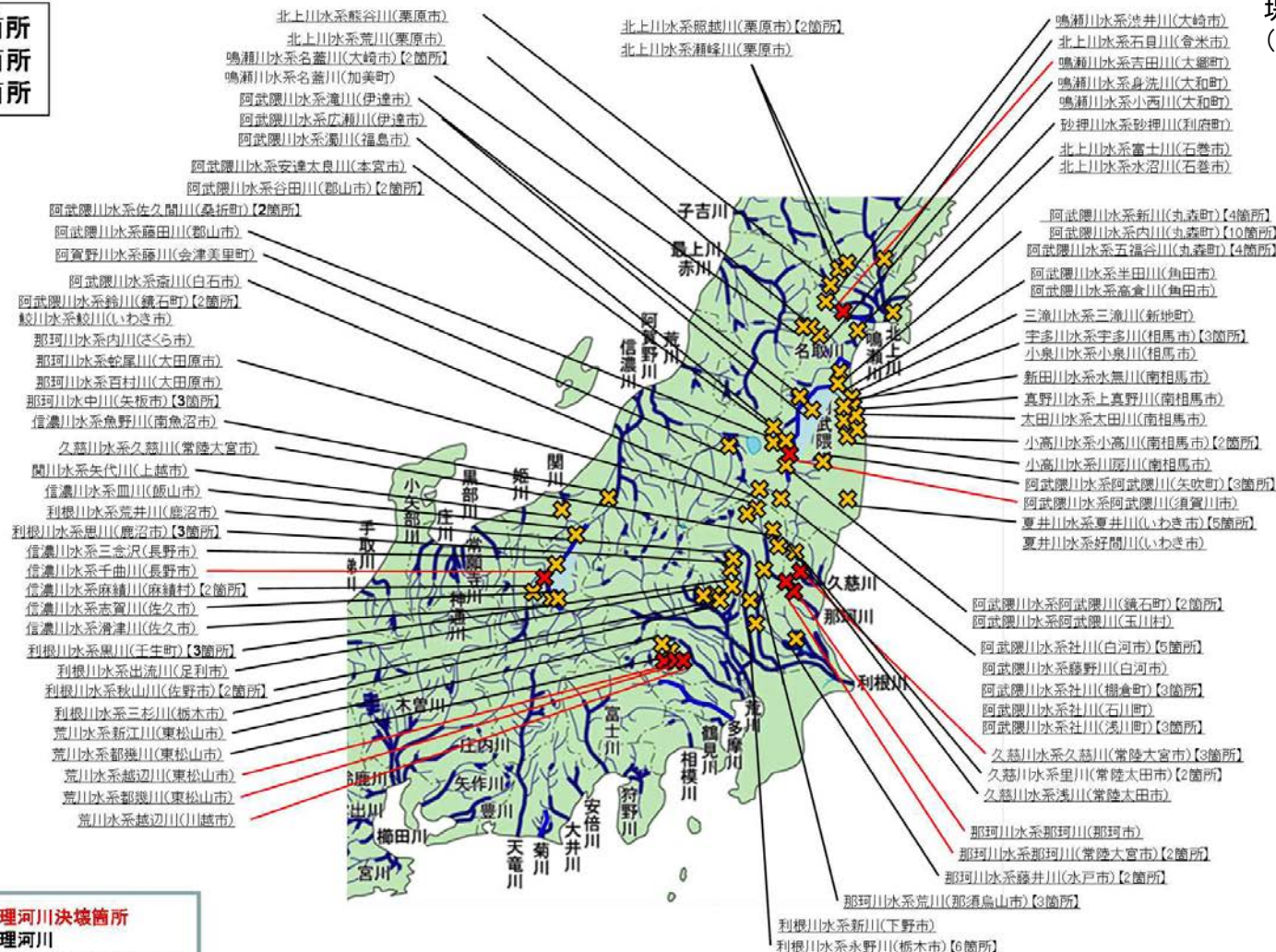
11月8日までに12箇所全ての補強工事が完了。

11月8日までに128箇所全ての仮堤防が完成。

うち36箇所では国の権限代行による復旧工事を実施。

国 12箇所
県 128箇所
計 140箇所

堤防決壊箇所一覧
(11月9日時点)



✕ : 国管理河川決壊箇所
— : 国管理河川
✕ : 都道府県管理河川決壊箇所

堤防決壊河川における堤防調査委員会の状況

R2年度 第1回大規模氾濫減災協議会

- 国管理河川12箇所での堤防決壊箇所について、堤防調査委員会を設置し、原因究明等を実施。

千曲川堤防調査委員会

【北陸地整】現地調査: 10月15日
第2回: 11月13日



信濃川水系千曲川(長野市)

荒川水系越辺川・都幾川堤防調査委員会

【関東地整】現地調査: 10月17日
第2回: 11月17日



荒川水系越辺川(東松山市)



荒川水系都幾川(東松山市)



荒川水系越辺川(川越市)



✕ 国管理河川決壊箇所
— 国管理河川

鳴瀬川堤防調査委員会

【東北地整】現地調査: 10月16日
第2回: 11月7日



鳴瀬川水系吉田川(大郷町)

阿武隈川上流堤防調査委員会

【東北地整】現地調査: 10月16日
第2回: 11月7日



阿武隈川水系阿武隈川(須賀川市)

那珂川・久慈川堤防調査委員会

【関東地整】現地調査: 10月18日, 第2回: 11月17日
第3回: 12月2日



久慈川水系久慈川(常陸大宮市)【3箇所】



那珂川水系那珂川(那珂市)



那珂川水系那珂川(常陸大宮市)【2箇所】

三重県内の近年の出水概要

三重県（H23紀伊半島大水害、H29勢田川流域浸水、R1三重県北勢豪雨）

H23紀伊半島大水害
（熊野川三和大橋）

熊野川水位が
約20m上昇！



H29台風第21号浸水



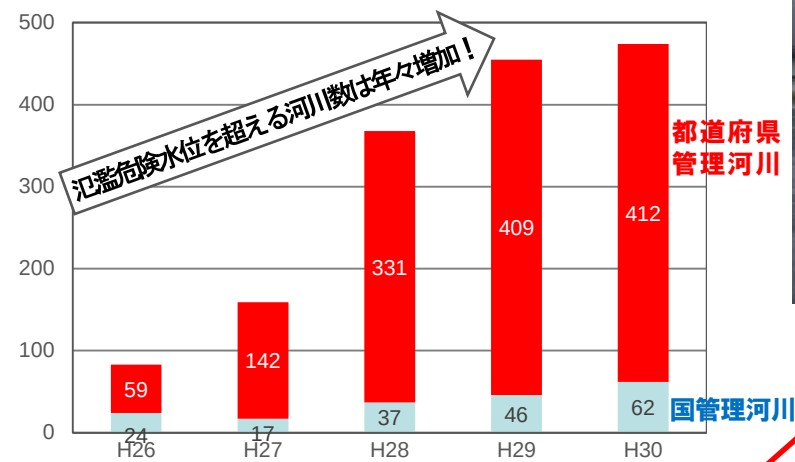
R1三重県北勢浸水

被害状況（三重県）
□死者 2名
□床上浸水702棟 □床下浸水832棟

被害状況（伊勢市）
□死者 1名
□床上浸水409棟 □床下浸水670棟

被害状況（北部地域）
□死者 1名 □床上浸水19棟
□床下浸水43棟

近年の氾濫危険水位を超えた河川の状況



氾濫危険水位を超える河川数は年々増加！



令和元年台風第19号での
五十鈴川の河川状況

記録的短時間大雨情報
（1時間当たり120mm）
が令和元年、三重県内で
9回発表！

氾濫危険水位を超えた都道府県
管理河川数が5年で約7倍増加！

三重県の基準は、
高知県、宮古島
地方などと並んで
最も高い基準！

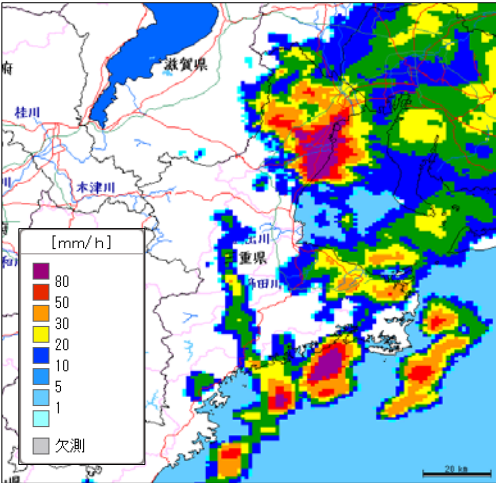
都道府県管理河川が大幅に増加！

三重県内の出水概要・被害(①令和元年9月出水:三重県北勢浸水)

R2年度 第1回大規模氾濫減災協議会

● 発達した雨雲の影響により、三重県では令和元年9月4日から9月6日深夜にかけて、県内各地で大雨となった。鈴鹿雨量観測所では、**時間最大90mm/hr** を記録した。鈴鹿川水系内部川の河原田水位観測所では、2回（9/5、9/6）**氾濫危険水位を超過した**。

■雨量



9月5日 2:50 レーダー雨量
出典: XRAINレーダー雨量

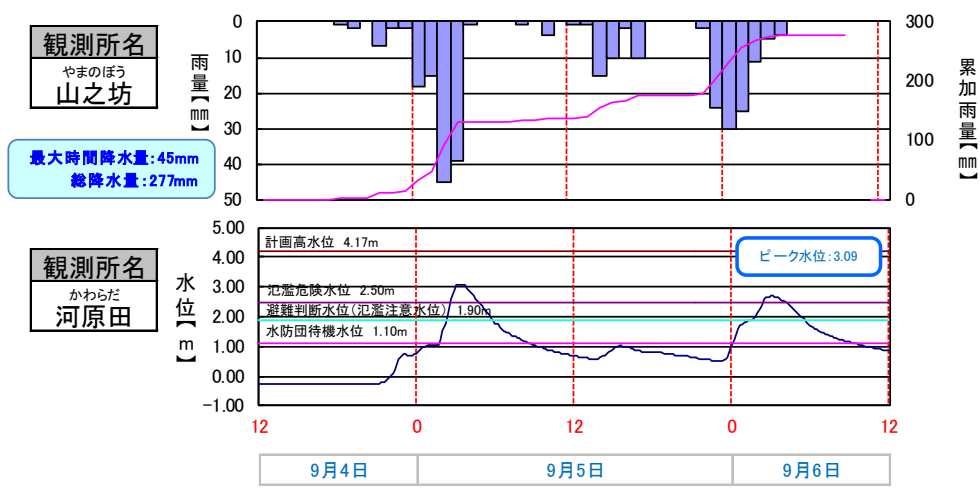
< 鈴鹿川水系 >

雨量観測所	総雨量 (mm)	時間最大 (mm/h)
鈴鹿 (鈴鹿川)	186	90
加佐登 (椎山川)	353	87
山之坊 (内部川)	277	45

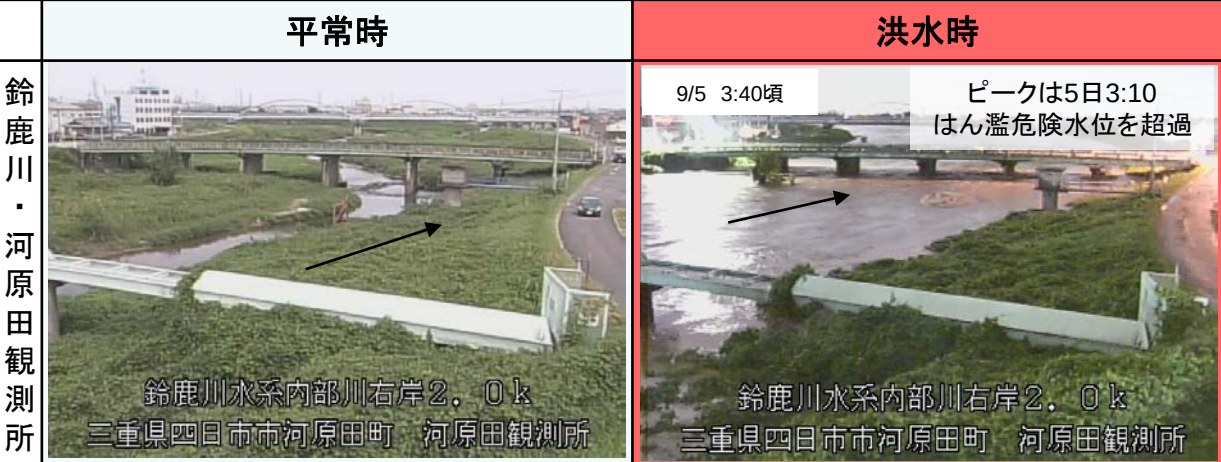
< 櫛田川水系 >

雨量観測所	総雨量 (mm)	時間最大 (mm/h)
相可 (櫛田川)	109	29

■雨量・水位の状況 (内部川)



■水位低減効果 (鈴鹿川水系内部川)



内部川では、平成25年度までに旧堤撤去・樹木伐採を実施したことにより、4.4k地点では**最大で約0.8mの水位低減効果**が図られたと推定される。

仮に、旧堤撤去・樹木伐採を実施していなければ、計画高水位に迫り、堤防が危険な状態になる恐れがあった。

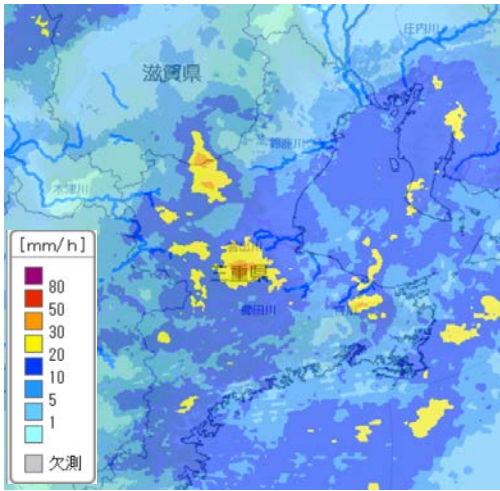
三重県内の出水概要・被害(②令和元年台風第19号)

■洪水による被害と状況

R2年度 第1回大規模氾濫減災協議会

● 台風第19号の接近に伴い、三重県では令和元年10月11日の夜から12日にかけて、県内各地で大雨となった。雲出川水系の2つの水位観測所で避難判断水位を超過したほか、櫛田川水系の3つの水位観測所で氾濫注意水位を超過した。

■雨量



10月12日 12:00 レーダー雨量
出典: XRAINレーダー雨量

<雲出川水系>

雨量観測所	総雨量 (mm)	時間最大 (mm/h)
川上 (雲出川)	323	27
宇気郷 (中村川)	362	32

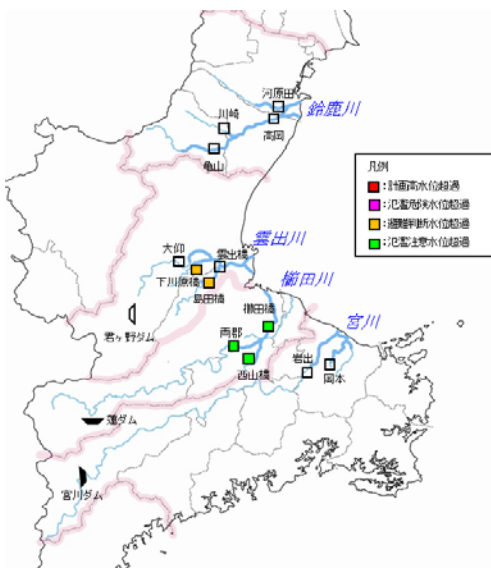
<櫛田川水系>

雨量観測所	総雨量 (mm)	時間最大 (mm/h)
波瀬 (櫛田川)	284	25
相可 (櫛田川)	255	23

<宮川水系>

雨量観測所	総雨量 (mm)	時間最大 (mm/h)
岡本 (勢田川)	301	30
高麗 (五十鈴川)	623	67

■三重四川 最高水位



■直轄河川管理施設の被災状況

櫛田川の左岸1.2k付近
低水護岸ブロックの崩落 (L=約50m)



■水位低減効果 (雲出川水系中村川)

中村川では、平成14～24年度の雲出川特定構造物改築事業 (近畿日本鉄道新中村川橋梁) や平成27年～30年度の下流部河道掘削などを実施したことにより、新中村川橋梁地点で、**最大約0.6mの水位低下効果**が図られたと推定される。

	平常時	洪水時
櫛田川水系佐奈川 西山橋観測所	 10/12 14:10頃 三重多気佐奈川西山橋観測所 右3.9k	 ピーク 10/12 10:30 氾濫注意水位を超過 三重多気佐奈川西山橋観測所 右3.9k